

東京演劇集団風 「バリアフリー演劇」を体験しよう！

私たちがここで使っている「バリアフリー演劇」という名称は新しい試みです。これまでの演劇の舞台を、目が見えない人たちが耳が聞こえない人たちと一緒に楽しんでみるように、セリフの字幕表示や音声ガイドを有効化し、更にシナリオや演出にも工夫を加えていくという試み＝ムーブメントのことを指しています。常に進化を続ける演劇です。常に進化を続ける演劇です。

Touch

◆孤独から愛へ◆

「孤児」である3人が出会い、孤独を抱えながらも、真剣に相手と向き合うことで、新たな一歩を発見していく、愛の物語。

作：ライル・ケスラー
原案：ORPHANS
訳：小田島恒志
演出：浅野佳成

出演：柳瀬太一／佐野準／佐藤勇太／小島祐美（舞台手話）

令和4年10月16日〔日〕 14:00開演

会場：勝央文化ホール（岡山県）

チケット料金（全席指定） A席（1階）2,000円／B席（2階）1,000円 ※当日券は500円UP

チケット販売期間：令和4年10月16日 午前10時30分～11時30分、午後1時30分～2時30分
チケット販売場所：勝央町公民館 TEL.0868-38-1753 FAX.0868-38-2580

主催：勝央町教育委員会 後援：勝央町文化協会、公益財団法人東京演劇集団風

バリアフリー演劇

Touch

◆孤独から愛へ◆

作：ライル・ケスラー 原案：ORPHANS 訳 小田島恒志
演出：浅野佳成
出演：柳瀬太一／佐野準／佐藤勇太／小島祐美（舞台手話）
令和4年10月16日〔日〕 14:00開演
会場：勝央文化ホール（岡山県）

孤独を抱えながらも、「孤児」である3人が出会い、
真剣に相手と向き合うことで、
新たな一歩を発見していく、愛の物語。

【あらすじ】

北フィラデルフィアの古いアパートの一室。アレルギーの発作でほとんど家を出られない弟フィリップと、不良の兄トリート、2人の孤児の兄弟が暮らしている。ある日、2人のもとに謎の紳士ハロルドが現れ、奇妙な共同生活が始まる。ハロルドは彼らを「デッド・エンド・キッド（行き止まりの子どもたち）」と呼び、「元気づけてあげよう」と手を差し伸べる。素直に心を開いていくフィリップ、一方でトリートは、触れられることを避け続ける。人と人が触れ合い成長し、新たに旅立つまでをユーモア豊かに描く、東京演劇集団風の代表作です。

「バリアフリー演劇」を体験しよう！

私たちがここで使っている「バリアフリー演劇」という名称は新しい造語です。これまでの演劇の舞台を、目が見えない人たちや耳が聞こえない人たちと一緒にみんなで楽しめるように、セリフの字幕表示や音声ガイドを追加したり、更にシナリオや演出にも工夫を加えていくという新しい試み＝ムーブメントのことを指しています。常に進化を続ける舞台表現を、この機会にぜひご体験ください。

【鑑賞サポート】バリアフリー字幕の表示 / 舞台上での手話通訳
音声ガイド「日本語」上演中場内のスピーカーから全体に流れます

【チケット料金】全席指定

A席（1F）：2000円／B席（2F）1000円 ※当日券は500円UP
チケット販売所：勝央町公民館 Tel,0868-38-1753 Fax,0868-38-2580

バリアフリー演劇総合監修：尾上浩二 バリアフリー演劇 芸術監督：北岡賢剛
作曲：八幡茂 舞台美術：水野敬夫 照明：坂野真也
舞台手話通訳監修：河合依子 音声ガイド監修：大河内直之
字幕監修：廣川麻子 字幕・音声ガイド制作 Palabra（株）
プロデュース：山上徹二郎

令和4年度地域の芸術環境づくり助成事業地域交流プログラム

バリアフリー演劇を考える！

東京演劇集団風公開講座

日時 10月15日（土）
午後1時30分～午後4時30分
（午後1時開場）
会場 勝央文化ホール

受講無料

ユニバーサル社会の実現を目指して、舞台芸術の分野でも様々な取り組みが行われています。本講座では、東京演劇集団風のバリアフリー演劇をとおして、ユニバーサル社会について考えます。

【東京演劇集団風のバリアフリー演劇への取り組み】
バリアフリー演劇では、通訳、字幕や音声ガイドといったツールを利用するものが多いが、「東京演劇集団風」には、演出自体にバリアフリーの試みを入れ込み、徹底的にバリアフリー演劇に取り組んでいる。具体的には、聴覚障がい者向けに字幕スーパーを舞台上に映写することに加え、手話通訳者が芝居に寄り添うような形で通訳を行う。また、視覚障がい者向けには、音声ガイドをイヤホンから流すだけではなくスピーカーから出し、台詞と台間の状況説明などを併用する。これは、聴覚者と同じように障がい者も演劇を楽しむというレベルを超えて、作品を観る者全員が等しくバリアフリー演劇を体験するという試みである。つまり、誰にも演劇を楽しむ権利があるという考えを、まさに、演劇的な手法で実現したものと見える。

【出演者プロフィール】

小島 祐美 舞台手話通訳
手話通訳士として診療や救急送迎時、学校の講演、展覧会警察での取り調べ、講演会から多岐にわたる幅広い現場で手話通訳を務める。幼稚園や小学校、特別支援学校の教員免許、また保育士資格を持つ。演劇や音楽関係の講演や小学校で先生としての手話を教える。2019年、舞台手話通訳として東京演劇集団風のバリアフリー演劇「へんなクラウ」にひびき合うものたち（佐藤功作／浅野佳成演出）の初演に参加。また、「星の王子さま」（ヤナギダジュンリ／浅野佳成演出）、「Touch～孤独から愛へ」（ライル・ケスラー／浅野佳成演出）のバリアフリー演劇にも初演より携わり、豊かな身体表現をもって舞台手話通訳の新たな存在を開く。

佐野 準 東京演劇集団風 俳優
日本大学芸術学部演劇学科卒業。2006年、インターシブ生として「Touch～孤独から愛へ」（ライル・ケスラー／浅野佳成演出）でトリート役を演じ、東京演劇集団風に入団。その後、同作を自身の代表作として主演。全国巡回公演の舞台を飾る。舞台と客席に向き直る姿勢は若い世代の支持も厚い。2016年に初演となったマイ・ヴィズニョック作の新作「母が口にした『逆歩』」その言葉はひどく痛く響く（響いていた）（江原早希演出）出演。また、「死者たちの世界」を語る息子を演じている。全国巡回公演・西日本プロジェクトのチーフを務め、公演のプロデュースを行っている。

柳瀬 太一 東京演劇集団風 劇団代表
1987年、東京演劇集団風創立に参加。風の劇団となるチューンアップ作品、プレヒト作品にはほぼ出演し、ベスト・オブ・ベストと称される。浅野佳成演出による「マホーニーの舞」（パウル・アッカーマン役）、「群っ玉おむすびとその子供たち」（料理人役）など代表作が多い。近年は原簿早稲田による「なぞ〜なぞ〜」（2013年初演）、「マイ・ヴィズニョック作」のチーフ演出。『我が口にした『逆歩』』（2016年初演）、「マイ・ヴィズニョック作」の演出人役など主要な役を担い、幅広い人間観察から生み出される骨太の舞台に定評がある。また上演企画チーフ／ダイレクターとして、全国巡回公演や海外での公演活動のプロデュースを行っている。

平下 耕三 NPO法人自立生活夢センター代表
7年間勤めた行政の外部団体である自立センターを退職し、自分自身の夢を実現するために「自立生活夢センター」を開設した。先天性脊髄形成不全という生まれつき脊髄が強く折れやうい疾患（難病）を持つ脊髄手術利用者である。1995（平成7）年に1か月間アメリカでの生活を体験する。そこで「自分自身を好きになることの大切さ」を学んだ。「人間は、生きていく上で必要な環境が三つある。①安心（愛されていること）②自由（好き放題やるのではなく、自分でやらなければならないこと）③自由（自分をいっしょにする）自分を大切にできない人も大切にできない。人と人との関係の中で、承認されている存在を「自分」を互いに引き出し、発現できることがエンパワーメントである。」と自覚の重要性を強調する。

